

國學院大學學術情報リポジトリ

國學院雑誌の創刊百二十周年を祝す

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤井, 益久, Akai, Masuhisa メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000006

國學院雜誌の創刊百二十周年を祝す



学長 赤井益久

『國學院雜誌』が通巻百十五巻を迎えた。創刊以来、戦中戦後の一時の休刊を挟み百二十周年を閲するということである。言うまでもなく、研究教育機関としての大学は、研究成果を世に問い、批判を仰ぎ、さらなる進展を求める営為によって成り立つ。教育は、その不断の研究活動によってもたらされる成果を還元することによって、生き生きとした研究の最前線を学生に知らしめ、かつ共有することで研究の未来が将来されると

いった循環的な機能をも有している。

その最も重要な基盤をなすのが、研究者における日々の研究活動の成果である「学術論文」の公表である。したがって、『國學院雜誌』は國學院大學の、とりわけ研究面での「顔」といって良いだろう。この百二十年の間に発表された学術論文は、その折々の斯界を主導する成果であった。学術論文集の月刊発行というのも、学術の公表の手段として、人文学の在り方としては、けっして一般的な形態ではない。それを支える日々の研究活動が活況を呈しているという証左でもある。

『國學院雜誌』に論文を発表するということは、学生時代のある種あこがれであった。わが院生時の大学院院長臼田甚五郎先生は、院生に向かって常々こう仰せであった。「一年に一本は論文をまとめるように」、修了までに五本は活字にするようにと。もちろん、これは大学院修了後の就職のことを考慮されてのご指導であったが、研究者の心構えをたたき込まれた思いを強くした。のち、研究者の端くれに加わった折、自らにこの戒めを心に刻んだ。一年に一本は学術論文をまとめよう、隔年に一本は『國學院雜誌』に掲載できるように研鑽を積み努力しようと、ひそかに心に決めた。

現在大学は、その中期計画「21世紀研究教育計画」に基づく研究と教育の内容を公表し、その成果を世に問いつつある。また、機関リポジトリの構築も急がれる。学術成果の公表手段が今後形態を異にするにせよ、『國學院雜誌』の使命と役割は今後とも増しこそすれ、減ずることはないだろう。発刊の辞にある「意を弁へずして、形のみを穿鑿せんは、完全の研究にあらず」を標榜する精神を、今改めて体し、創刊百二十周年を祝すると同時に、研究のなおいっそうの活性化を祈念するものである。